

【視察調査報告書】

委員会名	厚生委員会
派遣委員名	【委員】 8名 前田佳子委員長、西室真希副委員長、岩田祐樹委員、青柳有希子委員、馬場貴大委員、渡口 禎委員、小林裕恵委員、若尾喜美絵委員
日 程	令和2年（2020年）2月17日（月）
目 的	障害者の就労支援、生活支援や自立支援などの事業のほか、農業と福祉を結びつけた取り組みについて視察し、本市の障害者福祉施策の参考とする。
視 察 先	社会福祉法人 福祉楽団（千葉県香取市）
視 察 内 容 及 び 概 要	<p>①栗源協働支援センター（障害者就労継続支援A型）</p> <p>障害のある人と雇用契約を締結し、最低賃金を保障する「働く場」で、「施設利用者」ではなく「職員」として働くことを求めている。障害のある人もない人も協働する地域社会をつくるため、事業性の高い仕事を創造し、協働の仕組みの整備と就労の支援を行う。</p> <p>②恋する豚研究所（栗源協働支援センター内）</p> <p>障害のある人たちが就労継続支援A型の福祉事業として働きながら、豚肉やハム、ベーコンなどを製造している。製品は「恋する豚研究所」のブランドとして販売している。研究所に併設しているレストランでは、恋する豚を使用したメニューを提供している。</p> <p>③栗源第一薪炭供給所（障害者就労継続支援B型）</p> <p>農業と自伐型(小規模)林業を展開することで、雇用を創出し、荒れている里山や休耕地の保全をしている。主な作業内容は、森林整備作業(薪割り・薪運び等)、農作業(田植え・収穫等)、スイートポテトの製造・販売などである。</p> <p>④香取CCC（中核地域生活支援センター）</p> <p>千葉県から委託を受け、相談支援事業を運営している。子ども、障害者、高齢者など、誰もがいつでも、どんなことでも気軽に相談できるよう24時間365日体制で地域福祉のセーフティネットとして、広域的、高度な専門性をもった寄り添い支援を行う。</p>
委員長所感 (意見・課題・本市への反映など)	<p>●前田佳子委員長</p> <p>若い経営者や職員の、先を見た考え方や新しい発想、優しく謙虚な姿勢に感銘を受け、希望を感じました。</p> <p>高齢者のデイサービスも開設する方向で施設整備をしてあり、「高齢となって農業をやめた人が、農業指導できる場所、ノウハウを継承できる仕組みを作りたい。65歳になると障害福祉サービスが介護保険に移行となるが、障害者就労継続支援B型の事業として、生きがいを持って働きながら、デイサービスを利用するという形を作りたい」という話が最も印象に残っています。</p> <p>障害者の仕事として、チェーンソーやユンボ、トラクターを危ないから使わせないのでなく、作業工程を分解し、できるところを担ってもらっているとの</p>

こと。「弱い人を助けてあげる」という発想の福祉感はやや存在せず、相手を信用し、リスペクトすれば、やりがいのある仕事、落ち着ける職場、行きたくない居場所等々を創出できるのだと感じました。

本市も同様に、田畑や山林があります。耕作できない、整備できない、災害時の心配の種という課題を、地域の雇用、学び、団らんの場合へと変えていきたい。気候変動、災害多発の時代となってしまった今こそ、地域の食、エネルギーの源となる、八王子の田畑、山林という宝物を活用して、豊かな共生社会を実現すべく、具体的な施策を考えていきます。

委員所感
(意見・課題・本市
への反映など)

●西室真希副委員長

障害者就労継続支援施設とは思えない環境でした。ターゲットを絞りブランド力を付け、利益追求をし全国展開できるよう工夫がされており、レストランも地産地消、地域の方々に受け入れられ、交流の場、出会いと雇用の創出の場となっているということを実感させていただきました。地域特性をしっかりと理解し商品化を進めることで、地域特産も同時に生み出すことができ大変参考になりました。

●岩田祐樹委員

当該施設は、障害者就労継続支援事業のA型施設とB型施設を利用することで、障害者に就労機会の提供や職場訓練を行いつつ、企業として食の安全や農業・林業の課題解決をテーマに運営されており、個々の利用者の特性に合わせた施設運営が行われ地域や社会との共生を確立させながら、しっかりと自立支援を目指すスキームが構築されており、着実な成果が見受けられる参考となる施設であった。

●青柳有希子委員

恋する豚研究所は、農福連携で事業を大きく展開され、収益を上げていました。障害者の就労支援の場だけではなく、障害者分野の様々な事業も担っていることが特徴的でした。また、地元農家と連携し、農家と事業が重ならない養豚と加工、販売に特化するなど、工夫がなされ、また、建築デザインにも力を入れ、多くの人が訪れる施設となっていました。大変勉強になりました。

●馬場貴大委員

本市の障害者就労継続支援A型について、現状6か所中1か所は事業所内にA型をつくり安定した仕事の供給に取り組まれているが、根本的な拡大に向けては依然として諸課題は山積みしている。

今回の視察からは法人の強固な母体のもとで景気に左右されず、かつ安定した太いパイプがある委託を結ぶ理想的な事業形態を視たわけであるが、今後の本市A型事業の推進においては、道の駅などの市関連施設において一步踏み込んだ研究に取り組むことを提示してみたい。

●渡口 禎委員

大変に興味深い視察となりました。障害者支援の枠組みの中で各事業のコンセプトやランドデザインがしっかりと反映されていることに感銘を受けました。地域に根を張り地域の特徴を生かした事業展開、中でも林業とのコラボなど今までの発想にはない事にも挑戦されていました。今後も期待しています。

●小林裕恵委員

恋する豚研究所の製品は、デザイン・味・品質のクオリティを上げ「かせぐ」という視点で運営されています。障がい者の賃金・工賃を上げるために重要な視点だと改めて感じました。香取CCCでは、多様化・複雑化する課題に縦割り行政のはざままでこぼれた方に伴走型支援を行っています。委託期間が1年という課題はあるものの地域福祉のセーフティネットとして、本市にも取り入れたい事業でした。

●若尾喜美絵委員

恋する豚研究所は、福祉楽団が運営する就労継続支援施設です。安全でおいしい豚肉にこだわり、加工と販売、レストランの運営がされ、地域交流の場にもなっています。畑で栽培したさつまいものスイーツの製造販売や薪資源の活用など、農福連携は、今後の八王子のまちづくりと障がい者福祉を考える上でとても参考になります。

そ の 他
(視察の様子)

